出題分析		
試験時間 120 分	**配点** 200 点	**大問数** 1 題
分量（昨年比較）〔減少　同程度　増加〕		**難易度変化**（昨年比較）〔易化　同程度　難化〕

【概評】

複数の文章をもとに分析、論述を行うという形式は例年通り。昨年度に比べて資料の数は 3 つ増加したが、ひとつひとつが短くなったため文章量としては減少。今回は「人間」「未来社会」「SFC での学び」のそれぞれについて、必要に応じて 8 つの資料を活用しながら考えさせる問題であった。問 1、問 2 では記述内容に様々な条件が課されており、問 3 では問 1、問 2 での回答を踏まえることが求められた。設問の要求を正確に理解し、論を簡潔にまとめることに加え、全体を意識した構成を考えることが必要となった。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	問 1 「人間」とは何かを議論する。 問 2 「人間」は「未来社会」においてどう生きるべきか議論する。 問 3 問 1、問 2 での回答を踏まえ、「未来社会」において「人間」の先導者を目指す学生は SFC でどう時間を過ごすべきか考えを述べる。	問 1。資料 1～4 では、愛や個性と資本主義社会の関係（資料 1）や、考えること（資料 2）などの観点から「人間」について論じられている。これらを参考にしながら自身の意見をまとめればよいだろう。必ずしも資料を活用する必要はないので、自身の知識を用いて解答を作成しても構わない。ただし、「人間」の多義性、多面性にふれ、複数の人物の思想に言及しながら自分の目指したい「人間」の在り様についても述べるという設問要求があることを失念しないように注意しよう。 問 2。資料 5 では主にテクノロジーの発達についてプラスの側面から論じられている。必要に応じて資料 6 や資料 7 を活用しながら、テクノロジーの発達による負の影響や社会問題について考察し、それらに対処していくために「人間」はどう生きるべきかを論じるとよいだろう。 問 3。問 1、問 2 で示した、目指したい「人間」の在り様や「未来社会」における「人間」の生き方を踏まえて、矛盾のないようにまとめればよい。	標準

合格のための学習法
慶應義塾大学総合政策学部の小論文問題の特徴は、まず膨大な資料文が課されることである。資料文を隅々まで理解するのは時間的に困難なので、設問をよく読んで解答に必要なポイントを念頭に置きながら文章を読むようにしよう。特に、近年では資料単位の要約問題や資料間の関係を記述させる問題などが頻出しているので、読解力と記述力の向上を怠らないようにしたい。対策としては、新聞のオピニオン欄などで複数の異なる意見を読み、一つ一つの文章を要約することや、互いの共通点や相違点をまとめるなどの訓練が有効である。 意見論述については、実証的な議論を展開できる力を身につけたい。総合政策学部の出題からは、課題解決のためにはデータの収集・分析が大切であるという大学のメッセージが如実にうかがえる。たとえば、2013 年度は図表が 10 個も与えられ、設問の指示でも「実証的な議論を展開してください」と明記されていた。さらに、2019 年度は統計・図表が全体で 21 個も掲げられている。対策としては、やはり日頃から新聞やニュースサイト、テレビ番組、論点集などに触れ、そこで興味深い統計やデータがあればストックしておくことが大切である。もちろん、そこではどのような分析手法を用いているのか、基礎となるデータは何か、また提示されているデータにどれだけの信憑性や有効性があるのか、数値の「分母」は何か、複数の解釈の余地はないかといった、批判的・客観的な視点を忘れないようにしよう。